

公金詐取事件について

～背景を含め、全容説明を～

千葉県職員労働組合行財政対策部

公金詐取事件が相次いでいます。県民の期待と信頼を裏切る行為であり、憲法が規定する「全体の奉仕者」として決して許されない行為です。

現段階では、個人犯罪とされていますが、それだけで済まされるでしょうか。氷山の一角、同時に組織的なものとする声が、職場内外で聞かれます。「裏金の存在は常識」「上司の指示で強要される」「それができるかどうかで出世が決まる」などです。

事実、今回の当局調査でも、「約180の部署で全体的に預けがあったと思われる」とする結果が明らかになっています。「組織的」とすれば、二重の意味で許されないでしょう。この際、徹底して膿みを出し尽くすべきです。

同様の事態がないかにとどまらず、背景は何か、県予算執行上の問題点はないか、上司と部下の関係は、などその構造的要因を含めて究明し、今後の再発防止につとめるべきです。大部分の職員は日々まじめに職務に邁進しています。こうした職員の、そして県民の皆さんの信頼を勝ち取るためにも県当局の積極的な対応が求められています。

また、森田知事については、政治とカネをめぐるさまざまな「疑惑」が指摘されています。私たちは、知事が自らの疑惑解明と併せて今回の事態の打開へと、その先頭に立って奮闘することを強く要求します。